

まごころだより

2020年 8月号

コロナウイルス感染が広がりを見せてから凡そ半年、未だウイルスの勢いは収まる気配をみせていない状況です。自粛ムードが利用者の楽しみも奪ってしまいました。私たち職員は出来る限りの防止策を講じ、利用者に感染しないように対応してきました。しかし、今まで月に何度かあったお楽しみ会が長い間開かれないうちに、なぜなのか理解できない利用者もいらっしゃるのが普段の会話の中で感じ取ることができました。



「長いこと歌う会がないけれど、どうして？」「踊りを見せてくれる会は今度いつくるの？」という疑問を投げかけられて、その都度コロナの説明はしますが、時間が経つと同じことを聞かれる。その繰り返しを何度かすると、そのうち聞かれなくなりますがその表情は納得されたようには見えません。以前は月に4～5回のお楽しみ会を開いていましたが、三密を避けるために全て中止。ドライブも中止。小物作りやお菓子作りも中止。そ

うなるとお喋りが残された楽しみになりますが、やはり密接になりがちで困ってしまいます。

先日、久しぶりにお会いしたご近所の方にも「息抜きできる機会が減って、つまらないわ。まごころさん。前みたいにイベントが出来るようになったらいいのにね。待ってるよ。」と言ってくれました。

こんな窮屈なことでは、デイサービスで満足はしてもらえませんが、会話の中で利用者がどんな希望を持っておられるのか、どうしたら満足してもらえるのか探るのがコミュニケーションです。お楽しみ会はほんの少しの気晴らしですが、その少しでも楽しかったと感じてもらえるように日々努力をしてきました。

そこでお楽しみのやり方を工夫してみようと、職員たちの持っているアイデアを提案してもらうことにしました。今まで地域の方達の協力で一緒に行ってききましたが、当分は控える形になります。規模も普段と変わらない形の活動にします。決められた日、決められた曜日にせず「イベント」といったスタイルを日常の中の「お楽しみ」にしたいと思います。アイデアは（小物作り）（おやつ作り）（お茶会）・・・並べれば真新しいものはないようですが、工夫をすればいくらでも楽しそうな内容にしていけそうです。コロナが広がる前のように、利用者の明るく楽しそうな表情が見たい、普通に楽しかったと言ってもらえるようなそんなお楽しみ会にしていきたいと思えます。ご近所の方には、必ず復活させてお誘いしますからそれまでお待ちください。

